

第1回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2025年5月20日(火) 19時~20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 30名

◇実践報告 奈良教育大学 特任准教授 長谷川かおり先生
「幼児教育におけるESD」

【実践概要】

1. 幼児教育の基本となる考え方とESDの共通性

- ①生活を基盤とすること
- ②総合的・包括的な指導方法
- ③環境を通しての教育
- ④自然との関わりの重視
- ⑤園と家庭・地域の連携
- ⑥子どもと保育者の相互性

ESDと親和性がある

どんな活動をしていてもESDの切り口でできる



ただ、こども園では教育目標という大きな捉えの中で考える

2. 奈良教育大学附属こども園の教育目標について

令和4年度より 「共に創る保育 ～持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発～」

持続可能な未来に向けて、地球規模の課題を自分事として捉え、身近なところから行動し、仲間とともに新たな価値を創造する力を備えた人になるための基礎を育みたい！

めざす方向

〈地球の中で〉持続可能な未来に向けて、保育者とともに考え、行動する子ども

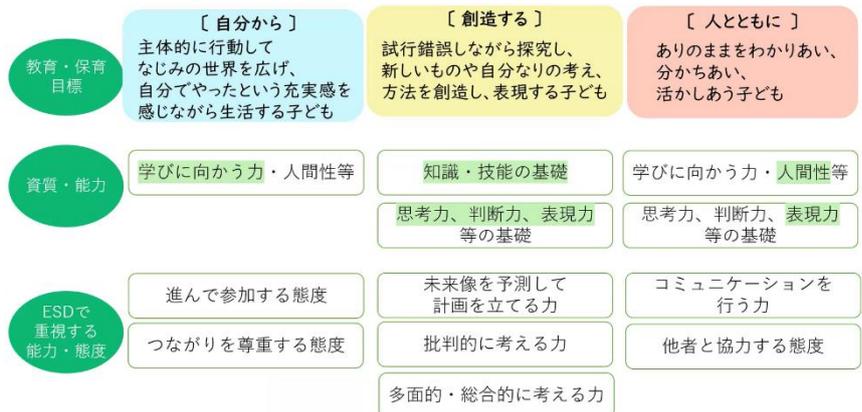
めざすこども像

〈自分から〉主体的に行動し、なじみの世界を広げ、自分でやったという充実感を感じながら生活する子ども

〈創造する〉試行錯誤しながら探究し、新しいものや自分なりの考え、方法を創造し、表現する子ども

〈人とともに〉ありのままを分かり合い、分かち合い、活かす合う子ども

ESDで育てたい資質・能力に
併せてみると・・・



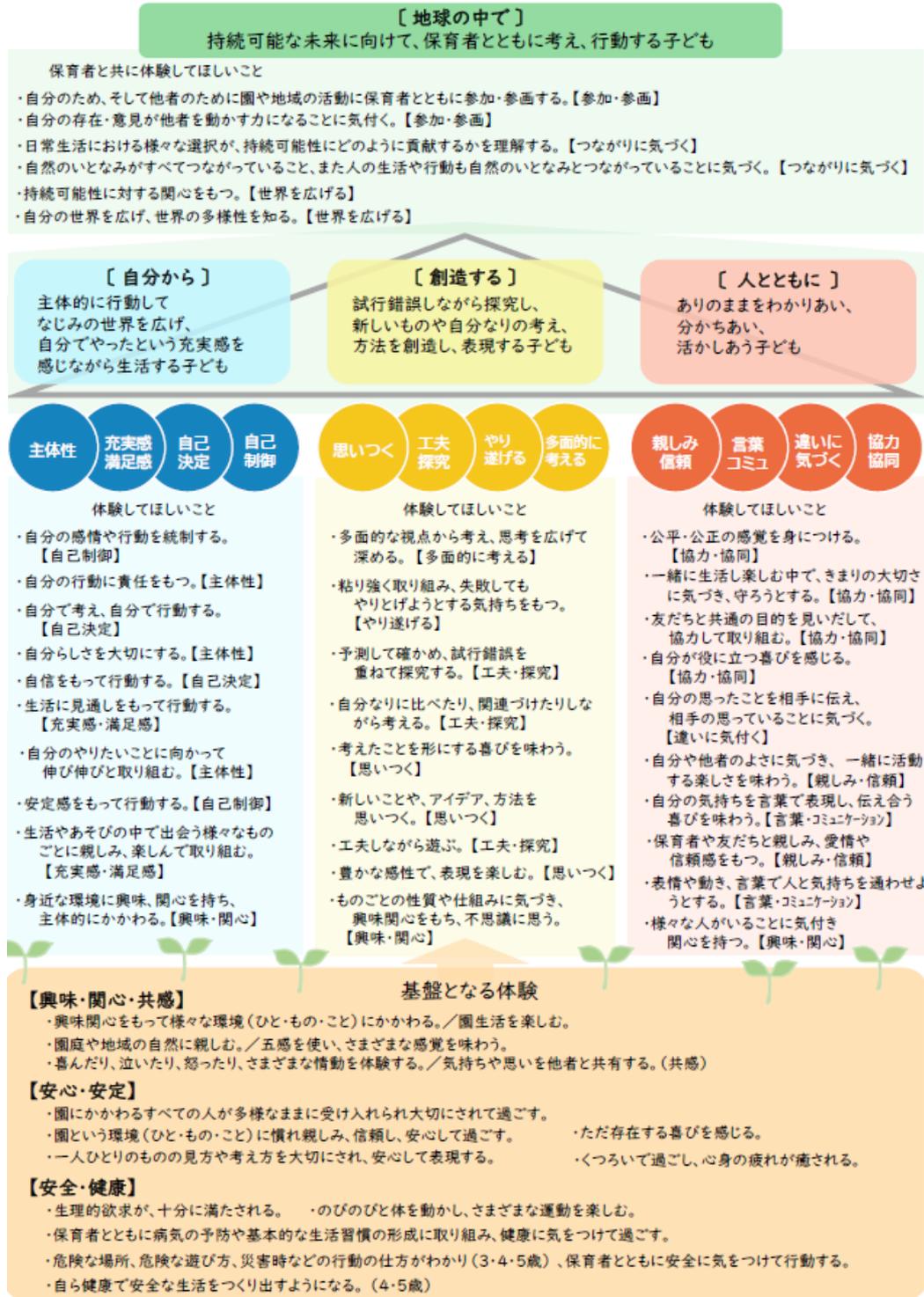
教育・保育目標

保育者とともに体験してほしいこと

ESD の構成概念とあわせている。

育てたい資質・能力 (12)

すべて育てないといけないというわけではない。



3, 実践事例① 「附属こども園の誕生日をお祝いしよう」

日常的に子ども同士で誕生日をお祝いし合っている

→ みんなでこども園の97歳の誕生日をお祝いしよう！

園庭に集まって歌を歌ったり、紙に書かれたケーキを配ってもらったりする

自分のため、他者のために園や地域の活動に保育者とともに参加・参画する

「こども園にも自分と同じように誕生日がある！」（2歳児）

「こども園のためにみんなといっしょにろうそくを飾ってお祝いしよう！」（年少児）

「こども園のためのろうそくを工夫して作り、全園児でいっしょにお祝いをする」（年中児）

「こども園は自分の年齢よりも長く生きている（存在している）ことを知る」（年中児）
「周りの人やものの年齢に関心をもつ」（年長児） 大仏さんは 1270 歳！
「こども園の誕生日のために自分ができることを考え積極的に参加する」（年長児）
「昔のこども園、当時の人の生活・遊び等に関心をもつ」（年長児）
昔からある遊具（太鼓橋）は、「楽しいから、大切に使っているから今も残っている」
今一番楽しいと思う一輪車も大切に使わなきゃ！

4. 実践事例② 「卒園記念写真『だいすきなようちえん』」（5歳児）

園に近い写真館さんからいろんな写真をいただいている

→ これを参考に、卒園式に飾る写真を子どもに撮らせる（思い出の場所・もの）

・幼稚園を大切にしようとする ・友達の好きなことを知る

・遠くのだれか、遠くの出来事への関心や大切にしようとする気持ち

なぜそれを撮影したか、一言を添えて全員の分を卒園式で掲示する

【質疑応答、意見交流】

○幼児期における ESD を意識した取組によって、特に小学校生活科での学びに直結すると感じた。

○家庭との連携が非常に重要になってくると思うが・・・

→ 第1回の懇談会で、園の教育目標に沿ったその学年の方針などを具体的な姿で伝えている。

○「つながりに気付く」ことの大切さを感じた。1年生でももっとできることがあると思う。

○自己制御できない子どもが増えてきているように感じるのだが・・・

→ 個人で差があるのは仕方ない。その子にあった見取りと指導が大事ではないだろうか。

○子どもの思いや創造にいつでも沿えるように、いろいろなものが準備されている環境が大事なんだと気付けた。実践の幅につながる。

○「地球の中で」？ 「地球の上で」かなと感じた。

○資質・能力だけを考えていたらだめだということには共感できた。

6つの構成概念とあわせることで ESD が見えてくるというのはその通りだと思う。

○環境構成を工夫することで子どもたち自ら活動し、その中で学びが深まるのは学校教育でも同様。

○「感覚を養う」ことの重要性を感じた。特に幼児期や小学校低学年では。

・写真を撮るときに感じる季節の変化、自然の不思議さや面白さ

・だれかと一緒に何かをすることの楽しさ

ESD は探究するとき一人でするのではなく、だれかと一緒にするから学びが深まる
それが楽しい！